【差替　資料２】会津美里町地域公共交通網形成計画に係る令和7年度の取組評価について

方針	数値指標	目標値の設定根拠	目標値設定の考え方	単位	目標値（R7）	計画書記載現状値（H29）	令和元度実績値	令和2年度実績値	令和3年度実績値	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	取組評価	【参考】現状値の算出方法	備考
基本方針① 町民の生活と交流を支える地域公共交通の構築	路線バス利用者数	路線バスの利用者数から、町民の日常生活に必要な移動手段が維持・確保されているかを評価する。	現状維持	人／日	844	844	698	600	596	547	609	620	536	1日あたりの路線バス利用者数は536人で、前年度から84人減少した。路線別に見ると、新鶴線では前年度の13人から55人へと増加（42人増）が見られたが、永井野線は445人から361人（84人減）、本郷循環線は162人から120人（42人減）に減少した。減少の主な要因には、令和７年４月に実施したダイヤ改正に伴う減便（高田線12本減、本郷循環線２本減）による影響が挙げられる。今後は減便による影響を精査するとともに各路線の利用動向の分析を進める。	・R7.5末日におけるICカード等の乗車記録の集計による利用者数（福島交通会津支社から情報提供） 乗車数人536人（永井野線 361人 本郷循環線 120人 新鶴線 55人）	
	美里あいあいタクシーの利用者数	地域内交通の利用者数から町民の移動ニーズに即しているかを評価する。	増加	人／年	28,000	24,954	29,188	23,133	22,235	23,411	23,940	24,350	23,580	令和７年度の利用者は23,580人となり前年度（24,350人）から770人減少した。主な要因には、令和元年度から実施していた日・祝日の運行を廃止による利用者数の減少が挙げられる。令和６年６月に開始した坂下厚生総合病院便の実証運行は、令和６年度（R6.6～R7.3）の84人（延べ人数）から令和７年度は110人（延べ人数）となり26人増加した。今後は美里あいあいタクシーの利用促進を継続し、坂下厚生病院便の本格運行に向けた検討を進める。	・デマンドタクシー利用者数 　通常運行利用者数：23,580人 　実証運行（坂下厚生病院便） 利用者数：110人	
基本方針② 利用者ニーズに合わせた便利で快適な公共交通の構築	ユニバーサルデザイン車両の導入率	利用しやすい環境づくりが図られているかを評価する。	増加	%	100	60	84.3	84.3	82.1	75	79	81	81	美里あいあいタクシーの運行車両数に占めるユニバーサルデザイン車両数は１台/６台、路線バスの運行車両数に占めるユニバーサルデザイン車両数は25台/26台であり、前年度実績と同様の導入率となった。 引き続き、交通事業者の協力のもと、車両更新の際にはユニバーサルデザイン車両の導入を促進する。	・交通事業者への聞取り結果 (内訳) 美里あいあいタクシー：車両数６台、うちUD車両数１台 路線バス：町内運行車両数26台、うちUD車両数25台 合計　町内運行車両数32台、うちUD車両数26台(81%) ※UD：ユニバーサルデザイン	
	交通拠点における乗り継ぎ環境の整備箇所数	乗り継ぎ拠点の整備状況から、まちづくりと連動した地域公共交通が構築されているかを評価する。	増加	ヵ所	8	3	4	6	6	6	6	6	6	計画策定当初に想定の８箇所のうち、①じげんプラザ、②本郷庁舎、③新鶴庁舎、④情報センター「まってらん処」、⑤高田インフォメーションセンター、⑥本郷インフォメーションセンターの６箇所は路線バスの①～④敷地内の乗入れ及びフルデマンド方式のデマンド交通の運行により、まちづくりと連動した乗継環境が整備されている。 ⑦会津高田駅、⑧新鶴駅は、地域住民が利用しやすいダイヤ、二次交通としてのデマンド交通の周知、乗継環境の整備を進める。	・整備済：６箇所(じげんプラザ、本郷庁舎、新鶴庁舎、情報センター「まってらん処」、高田インフォメーションセンター、本郷インフォメーションセンター) ・未整備：２箇所(会津高田駅、新鶴駅)	R2.10.1～本郷庁舎、新鶴庁舎へ路線バスの乗り入れ開始 R8.4～　高田駅へ路線バス乗入れ開始
	交通拠点における乗降者数	乗り継ぎ拠点の利用状況から、まちづくりと連動した地域公共交通が構築されているかを評価する。	増加	人／日	50 （12.5）	39 （9.8）	42 （10.5）	39 （9.8）	27 （6.8）	28 （7）	26 （6.5）	24 （6）	9	令和７年５月末日における主要な交通拠点での美里あいあいタクシーの乗降者数は９人であった。各公共交通機関の接続強化を図るため、デマンド交通については令和4年11月から希望時間に応じた予約を可能にして、他の公共交通機関への接続強化を図っているが、交通拠点における乗降者数から、交通拠点としての環境整備やデマンド交通の利用促進方法について改善を図る必要がある。	・令和７年５月末日の美里あいあいタクシー利用者数から算出。 ・主要な交通拠点での乗降者数 まってらん処　６人 じげんプラザ　２人　本郷庁舎 １人 ・（　　）内は１日あたりの乗降者数	
基本方針③ まちづくりと連動した地域公共交通の構築	多様な分野・主体と連携した利用促進の取り組み件数	多様な主体と連携した利用促進策の取り組みが展開されているか評価する。	増加	件／年	3	1	1	5	4	12	9	8	2	観光、商工分野と連携した取組を２件実施した。観光分野では、只見線観光列車の乗客にノベルティグッズを配布し公共交通の利用促進を図った。商工分野では、２月２５日の御文殊祭にて、美里あいあいタクシーの無料デーを実施し、地域住民及び来訪者の公共交通利用を促進した。ギャラリーバス及び乗り方教室は、バス事業者との調整がつかず実施を見送ったが、観光、商工分野と連携し、幅広く利用促進を実施できた。引続き多様な主体と連携した利用促進を行う。	・商工分野との連携：１件（御文殊祭開催日にデマンド交通無料デーを実施）利用者数　116名 ・観光分野との連携：１件(観光客に対する只見線・デマンド交通PRノベルティグッズ配布)	
基本方針④ 将来的に持続可能な地域公共交通の構築	公共交通の運行に関する町負担額の維持	持続可能な公共交通網が形成されているかを評価する。	現状維持	千円／年	26,272	26,272	40,013	44,261	44,096	53,008	58,473	68,079	52,840	デマンド交通においては、前年度比で約289万円減額した。減額の要因には、日・祝日の運行廃止による運送費用の抑制による町負担額の減額が挙げられる。路線バスにおいては、前年度比で約1,235万円減額した。減額の要因には、永井野線（高田線）及び本郷循環線の減便による町負担額の減額が挙げられる。今後は、町負担額の減額要因となったデマンド交通及び路線バスの運行形態の変更による利用者への影響の検証や持続的で利便性を維持した公共交通網を構築する。	・令和７年度決算額 (町が交通事業者に交付した補助金額-国・県補助金収入額) デマンド交通：36,096,011 （R6:38,983,413円） 路線バス：16,744,098円 （R6:29,096,064円）	
	公共交通主体の利用促進の取り組み件数	多様な主体の連携・協働を取り組み内容から評価する。	増加	件／年	10	5	7	12	7	23	13	13	7	令和７年度の利用促進の取組実績は７件となった。只見線応援キャラクター「キハちゃん」活用のノベルティ作成（1件）、観光施設や役場受付でのPR（３件）、観光列車内でのノベルティグッズの配布や町商工会と連携し会津高田駅前・新鶴駅前での冬季イルミネーション等の「おもてなし」（３件）を実施した。ギャラリーバス及び乗り方教室は、バス事業者との調整がつかず実施を見送ったため、前年度から6件減少した。今後は実施内容を見直し利用促進に取り組む。	・利用促進の取組実績：７件 ①ノベルティグッズ作成：1件 ②ノベルティグッズ配布：３件(町内観光協会、役場本庁舎受付) ③おもてなし：３件(観光列車の車内でのノベルティグッズの配布　会津高田駅前・新鶴駅前で商工会による冬季イルミネーション)	